

2019年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
33101	日本の生活文化 Culture of Livelihood in Japan	荒井 信貴	専門	1	選択	1・2年前期
<b>科目の概要</b>						
<p>様々な技術革新の中、現代の生活文化は大きく変容を遂げ物質的豊かさを誇っているが、一方、失われつつあるものの自然の中で育まれた伝統的生活文化も日常生活の中で温存、あるいは都市を離れた遠隔地に遺されてきている。伝統文化はただ単なる保守性を示すのみならず、時代の変化に対応、革新性を示すものとしての再評価もある。伝統的生活文化と現代文化を比較しながら生活文化を見直し、今後のあるべき姿を考察する力を身につける。</p>						
<b>学修内容</b>			<b>到達目標</b>			
<p>① 日本の生活文化を人類登場から現代までたどり、その基本的な知識と特徴を認識する</p> <p>② 生活文化の必須要素一衣・食・住と信仰などを伝統と現代とを対比させながら理解をはかる。</p> <p>③ 現代生活を取り巻く諸問題について考察する。</p>			<p>① 現代に続く生活文化の歴史を理解し、その基本的な特徴を時代背景の中で説明することができる。</p> <p>② 伝統的な生活文化と現代における生活を比較し、両者それぞれの意義を評価することができる。</p> <p>③ 現代生活に潜む様々な問題を見出し、考察することができる。</p>			
<b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>		<b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的な行動事例</b>				
前に踏み出す力	主体性	講義内容で取り上げた課題について、自らの生活体験を考慮して理解ができ、また、新聞などにより情報収集を積極的に行って知識を増やすことができる。				
	働きかけ力					
	実行力	講義時間内は、集中力が切れないよう努め、緊張感をもって授業に臨むことができる。				
考え抜く力	課題発見力	「知らない」から、積極的な「気づき」の方向へと自身の関心を向けることができ、さらにそこに内在する諸問題を自身の考えるべき課題として捉えることができる。				
	計画力					
	創造力	講義内容を基本に自己の生活に関連づけて考えることができる。				
チームで働く力	発信力	受講中、自らの疑問を質問し、また自身の考えをまとめ発言できる。				
	傾聴力	他事に捉われず、講義に集中して理解に努める。私語を慎み隣席者の聴講を阻害しない。				
	柔軟性					
	状況把握力					
	規律性	遅刻や私語、携帯電話操作などを行わず、支障なく授業進行するための基本ルールを守ることができる。				
	ストレスコントロール力					
<b>テキスト及び参考文献</b>						
<p>テキスト:授業の内容にそったレジュメ・資料をプリントして配布。</p> <p>参考文献:授業にそって適時紹介する。</p>						
<b>他科目との関連、資格との関連</b>						
他科目との関連:「食生活ユニット」の諸科目、「国際交流フィールド」						
<b>学修上の助言</b>			<b>受講生とのルール</b>			
レジュメは要点記述のみのため、講義時における補足を記入しておくことが望ましい。また専門用語も頻出するため、理解できない時は辞書、パソコン検索などで確認しておく。			様々なメディアを通して、今、社会で何が起きているかを知り、自分なりにその原因や背景を考えてほしい。			

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
筆記試験		①	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本内容をはば広く理解し、講義の要点を把握しているかを評価する。</li> <li>基本理解の上に出て課題を発見し、適切に自身の主体的な考えを表明しているかを評価する。(課題発見力と主体性を評価)</li> </ul> ポイント：①講義での要点を踏まえ、自らの考察が表出できているか。 ②論理的一貫性をもって記述されているか。
		②	
		③	
		④	
		⑤	
小テスト		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
レポート		①	<ul style="list-style-type: none"> <li>小課題を1回出題する(10点)。実施時期と課題は授業中に指示する。</li> <li>評価ポイント ①講義内容に沿って、自己の関心を対象に向けているか。</li> <li>②正確に対象を把握し、記述できているか。</li> </ul>
		②	
		③	
		④	
		⑤	
成果発表 (口頭・実技)		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
作品		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
社会人基礎力 (学修態度)		①	(主体性) 受講中の問いかけに、自己の生活経験を率直に発言できる。 (実行力) 受講中、私語などなく緊張感を維持して受講できる。 (課題発見力) 問題点を発見し、質疑での発言に結びつけることができる。 (創造力) 自らの生活を見直し、将来に向けての見解を述べるができる。 (発信力) 明確な言葉で他の受講生に理解が及ぶよう発言できる。 (規律性) 受講中、学修意欲欠如(いねむり)等がない。 (傾聴力) 「あいづち」「うなづき」など授業進行に積極的に関与できる。 以上の場合には評価する。 ・受講態度(欠席)については、2点を減点する。
		②	
		③	
		④	
		⑤	
その他		①	
		②	
		③	
		④	
		⑤	
総合評価 割合	100		

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
授業態度に積極性が認められる。 レポートが提出されている。 筆記試験で、授業要点を8割以上理解し、説明できる。 自己の見解を論理的に記述することができる場合はA(優)とする。自己の見解に提言を含み、論理的に記述できる場合はS(秀)とする。	授業態度に規律性が認められる。 レポートが提出されている。 筆記試験で、授業要点を6割以上理解し、説明できる。自己の見解を付加することができる場合はB(良)とし、感想にとどまる場合はC(可)とする。

週	学修内容	授業の実施方法及び フィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1週 /	「文化」と生活文化 「文化」の定義と生活文化の 基本概念を考察する。	講義	「文化」という言葉の持つ 多面性を説明できる。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2週 /	日本の生活文化史（1） 自然と共存する旧石器・縄文 時代の生活文化を学ぶ。	講義 予習・復習成果を質 疑応答の回答を通し てフィードバック	自然と共存する日本文化 の原点を説明することが できる。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3週 /	日本の生活文化史（2） 稲作の伝来と弥生文化を学 ぶ。	講義 予習・復習成果を質 疑応答の回答を通し てフィードバック	現代に続く日本の稲作文 化の到来について説明 できる。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4週 /	日本の生活文化史（3） 歌や物語に登場する庶民の 文化と貴族文化を考察する。	講義 予習・復習成果を質 疑応答の回答を通し てフィードバック	優雅な貴族文化の一方 にあった庶民の暮らしを 述べることができる。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5週 /	日本の生活文化史（4） 中世武家文化と庶民の暮ら しを学ぶ。	講義 予習・復習成果を質 疑応答の回答を通し てフィードバック	戦乱に生きる武士と庶民 の生活の実態を説明でき る。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	日本の生活文化史（5） 都市江戸の発展と庶民文化 の多様性を学ぶ。	講義 予習・復習成果を質 疑応答の回答を通し てフィードバック	江戸庶民の豊かな生活 文化の一端を説明するこ とができる。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7週 /	日本の生活文化史（6） 西洋文化導入による明治以 降の生活文化の変化を学ぶ。	講義予習・復習成果 を質疑応答の回答を 通してフィードバック	日本の伝統文化とされる ことの多くがこの時代に始 まることを説明できる。	レジュメに講義内容 を加え復習。日本史 概説書により予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8週 /	日本の生活文化史（7） 関東大震災後の生活文化の 変容と特徴の概要を学ぶ。	講義 予習・復習成果を質 疑応答の回答を通し てフィードバック	モダン・女性の地位向上 というこの時代の特徴 を述べることができる。	レジュメに講義内容 を加え再読し復習。 日本史概説書により 予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	日本の生活文化史(8) 大きく変化し続ける戦後日本の生活文化を考察する。	講義 レポート小課題出題 予習・復習成果を質疑応答の回答を通してフィードバック	戦後から現代に至る文化変化について事例をあげて説明できる。	レジュメに講義内容を加え再読し復習。新聞記事などで伝統文化に関する情報を予習。	180	主体性 実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10週 /	伝統文化と現代 衣と食 衣と食の変容をたどり、伝統と現代について考察する。	講義 レポート結果の講評を通してフィードバック	伝統の持つ保守性と革新性を知り、現代的意義について述べられる。	レジュメに講義内容を加え再読し復習。新聞記事などで伝統文化に関する情報を予習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11週 /	伝統文化と現代 住と環境 住・環境の違いによる日本の東西文化について認識する。	講義 予習・復習成果を質疑応答の回答を通してフィードバック	自己の生活文化圏を認識し、その特性について述べることができる。	レジュメに講義内容を加え再読し復習。新聞記事などで伝統文化に関する情報を予習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12週 /	伝統文化と現代 信仰(かみとほとけ) 伝統的信仰や祭について歴史的に考察する。	講義 予習・復習成果を質疑応答の回答を通してフィードバック	人々の生活を支えてきた精神文化について、概要を説明できる。	レジュメに講義内容を加え再読し復習。新聞記事などで伝統文化に関する情報を予習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	伝統文化と現代 信仰(民間信仰) 庶民信仰と現代に続くその意義について考察する	講義 予習・復習成果を質疑応答の回答を通してフィードバック	人々の生活を支えてきた精神文化について、概要を説明できる。	レジュメに講義内容を加え再読し復習。配布資料を読み予習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14週 /	日本の生活文化の解明 民俗学と博物館 民俗学の手法と博物館の利用方法を学ぶ。	講義 予習・復習成果を質疑応答の回答を通してフィードバック	生活文化を解明するための方法について説明できる。	レジュメに講義内容を加え再読し復習。配布資料を読み予習。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15週 /	日本の生活文化(総括) 伝統文化の保存と革新について学び、討論する。	講義 グループ討議 討議講評を通してフィードバック	次代を担う人として、伝統文化について自己の見解を述べることができる。	講義録全体を再読し、討議内容を踏まえ、自己の考えをまとめる。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力